

## インクルーシブ保育 プラスワン

[こんな場面で、どうしよう?] お友だちに手が出ちゃう 編



室内あそび。  
 タロウくんは、大好きなブロック遊びに集中しています。その周りには、同じクラスの子ども達も一緒です。  
 友だちのジロウくんが青色のブロックを取ろうとしたそのとき、タロウくんは**突然**ジロウくんの頭を**げんこつ**で叩きました。  
 急なことで、なぜ手が出たのか分かりません。



そんなときは・・・

『**タロウくん**に状況を**と**ジロウくんの気持ちを伝えましょう。  
**また、望ましい行動を一緒に考えましょう!**』

(状況の解説+望ましい行動の伝達)

そこで保育者は、まずタロウくんをジロウくんから離し、  
 「ジロウくんが取ろうとしたブロックは、誰も使っていなかったよ?  
 それに、ジロウくんは叩かれて痛かったんだって。こういう時は、どうすればいいんだっけ?」  
 と、問いかけました。

あれれ・・・失敗!?



- タロウくんは「うるさい! あいつが、ぼくのブロックを取ったから悪いんだ!」と被害を訴えます。
- その上、**ブロックを独り占め**することに固執するようになりました。

－なぜだろう? 

動画はこちら

自分より、ジロウくんが優先されると誤解

- ①「頼れるのは自分だけ!」という誤学習によって、おもちゃを独占した(信頼関係の欠如)。
- ②「友だちや保育者は、僕の遊びを邪魔する人」という誤解から攻撃性が高まった(対人関係上の誤学習)。

## ここが 支援のプラスワン 《こだわる気持ちに配慮》



 漫画版はこちらから

こうすれば**成功!!**【ジロウくんに謝って、一緒に遊べた!】

タロウくんの考え(気持ち)に理解を示した

- ①「使おうと思っていた青いブロックを、ジロウくんが先に取ったから**慌てた**んだよね。」と伝えた(気持ちの言語化)
- ②「あの青いブロックだけ見てたから、他にも同じものがあるって**気がつか**なかったね。」と伝えた(状況理解の促進)。



## 「プラスワン」を深めよう

カッとなったり、つい手が出てしまうような行動は、**衝動性の強さ**と関係しています。周りからすると、「何の前触れもなく、急に激怒した」ように見え、困惑します。本人からすれば、その怒りには“正当な”理由と、急いで対処しなければならぬ“緊急性”があるのですが、表現方法が不適切なので周囲に理解されません。そして、保育者は、周囲の子どもの安全を守るために、衝動性の強い子どもを叱ることが多くなってしまいます。

集団生活を円滑に送る上で、不適切な行動を叱ったり、適切な行動を教えることはとても大切です。でも、そこに「仲間意識」がなければ、子どもは人づきあいを誤って理解することになります。そのため、「**つい手が出ちゃう**気持ちへの向き合い方がカギ

になります。共感はできなくても、「慌てたよね」「〇〇したかっただけだよね」と保育者が理解を示すことで、子どもは冷静に自分の気持ちや周囲の状況を見つめられるようになります。**このやりとりがあると、適切な振り返りができるようになるので、「ごめんね」が言えたり、平和で穏やかに遊べるようになっていきます。**